災地の岩手県花巻市産

年間5少を仕入れて

だんごのキビは全て被

所が被災した企業は多 受け、岡山県内でも事業 国内経済は大きな打撃を 日本大震災から3カ月。

配

い。一方で、経済界をは

けている。未曽有の災害

びだんご

に向け、被災地支援を続

じめ、地域の各界が復興

れぞれの「3・11」

東日本大震災が発生し

行動してきたのかー。そ ップらは何を思い、どう で、地場企業・団体のト

3月11日に発生した東

東日本大震災3ヵ月

長(中央)と本郷さん ことを振り返る武田社 般災地に 訪問した際の (左)、高祖さん

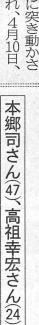


の避難所を回 か花巻市など

地に贈った。「この一粒 地から応援しています」。 を込めました」「岡山の んご約1400箱を被災 DAなどを通じ、 きびだ 際医療ボランティアAM 書きメッセージを添え 全ての箱に従業員の手 に精いっぱいの気持ち たすものであり、われわ 菓子は、単に腹を満た でくれた。子どもたち た。皆さんとても喜ん す糧ではなく、 の笑顔は輝いていた。 れの仕事の使命を実感し ご900箱と絵本を配っ 岩手県大船渡市の水産 り、きびだん 心を満

きびだんごを贈る武田社長(左) 入船渡市の小学校で子どもたちに

乱が続いてい 礼の電話をい 絡してくれ 話を使って連 ただいた。混 の男性からお ちが元気に 岩手県大槌町 える場。農漁業も含 だ。 の文化は失われない。 されたが、技術や仕事 め、形あるものは流 地域もよみがえるはず 職場がよみがえれば、 人が集まり、地域を支 けをしていた。職場は 員たちが懸命に片付 きをかけ、 は仕事に励み、商品に磨 それが復興だ。われわれ 時が来ると信じている。 皆さんが旅行を楽しめる に呼び掛けた。被災地の てください」と一人一人 いつか岡山に旅行に来 きびだんごを渡す際、 その日を待っ



れ、4月10日、

地に入った。 社員2人と現

大槌町のほ

た。その言葉

12日まで、被災地できびだんごを配 八武田社長とともに4月10日から

り、多くの人たちに笑顔になっても た。直接届けることで、思いが伝わ 幸せな気持ちを取り戻してほしかっ てくれた。小さな菓子だが、食べて 浮かべながら「頑張ります」と応え した」ときびだんごを渡すと、涙を をしていた。「岡山から届けに来ま 本郷さん皆さん疲れ切った表情

現地で見て感じたことを伝えていき も震災の記憶を風化させないよう、 り、必ず復興できる。後世になって 残っている。支援の輪は広がってお らが懸命に作業している姿が印象に みがそこにあったと思うと、胸が痛 い光景だった。たくさんの人々の営 んだ。ボランティアの方や自衛隊員 高祖さん被災地は見たこともな

直接届け多

炊き出しをした。 一会長)の呼び掛

> 武田 一社長

声を上げた。当社のきび 地に行こう」と社内で いられなくなり、「現 た直後、居ても立っても

温かい汁粉が喜ばれ、今

の阪神大震災の際、父 仲間も多い。 1995年 いる。現地には同業の

回も駆け付けようと思っ

交通網が寸断され、す

かったが、代わりに国 ぐに現地入りはできな

だき、沈んでいた気持 「きびだんごをいた 加工会社では、骨組みだ けが残った建物で、従業